

## 「一代目」東核芒種大伝道師

初代・伊邪那岐尊（男神）さまです。

現在の京都府宮津市大垣天橋立北浜の真名井神社の奥宮に、人間として始めて御降臨・御降誕された人祖「初代」伊邪那岐尊（男神）さまでございます。

## 「二代目」東核芒種大伝道師

伊邪那岐家世襲最期の当主アマテルカミ尊さまです

今から約四千二百年前、伊邪那岐家世襲最期の当主アマテルカミ尊さまは、その当時、争い戦いの危機に見舞われていました。現在の京都府宮津市大垣天橋立北浜の真名井神社のせきれいし鵺鴉石の上に立たれた、人祖「初代」伊邪那身命（女神）さまが、ただ唯一度だけ神が神のもとすがた宗像「いせいなり生命の神・伊勢生成の神」を明らかにされました。

アマテルカミ尊は、直ちに人類発祥身生れの聖地、丹波国の真名井原丹庭（現在の京都府宮津大垣天橋立北浜の真名井神社）現在の元伊勢の奥宮に、與謝宮を御造営に成り、あまてらすすめらのおみかみ天照皇大御神とお呼びになられお祀りされ、つつしうやまあが謹み敬い崇められました。その後、地球のさうききわけかみじ東西左右基の基分の神筋（経度）、北極から加賀の白山あくと安久寿の森を通り、岐阜県羽島市から南極に到る神筋と、一年に一度の芒種の日あくとに太陽が通る神筋（緯度）が十字に交わる地点（神祇の地）、現在の三重県伊勢市の神路山の頂にお移り願ひ、御降臨を賜りて、その神路山の麓の神霊地、五十鈴川の辺に與謝宮（伊勢神宮）を御造営になられたお方でございます。

## 「三代目」東核芒種大伝道師 加古藤市殿です。

今の日本国を始め、全世界が生命をないがし蔑ろにする時代と成り、平成元年二月二十四日、昭和天皇の大喪の礼を期に、加古藤市殿に改めて、人祖「初代」伊邪那岐尊・伊邪那身命より、だいしょうぶ大正腑・しょうぶ生産の神（伊勢生成の神）を伝えられて、生命界地球を救う為に、三代目 東核芒種大伝道師として、神祇の神の命を明らかにお伝いに成られておられます。

豊かに受ける界の一人

水野延子